

郷土摂津

第79号

平成16年11月1日

いにしえ通信

発行 摂津市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課
〒566 - 8555 摂津市三島一丁目1 - 1

(06)6383 - 1111 (072)638 - 0007

ホームページアドレス <http://www.city.settsu.osaka.jp/>摂津市の
石造文化財味府神社鳥居
味生神社鳥居

第8回

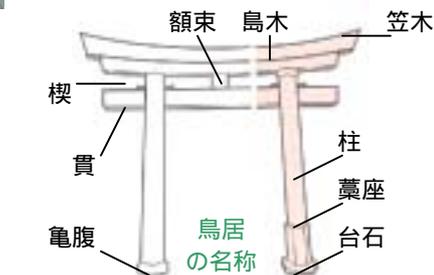
鳥居について 神社を訪れた際にまず目につくのが鳥居です。鳥居は一般に参道にまたがる形で建てられています。神社の建築物の中で、親しみやすいものの一つと言えます。鳥居の構造は基本的には左右2本の柱を立て、その上に笠木と貫という横材を入れて結びつけた形です。鳥居の名称の由来には諸説ありますが、「通り入る」という言葉が鳥居となったという説や、鳥が居ることから命名されたという説などがあります。

鳥居はその形状や性格からいくつかの種類に分類されます。鳥居の原型とされる最古の形式と言われる「黒木鳥居」、伊勢神宮に代表される「神明鳥居」、そして今回紹介している「明神鳥居」など多様な形態があります。「明神鳥居」も笠木の傾斜がV字型、水平など多種あります。

味府神社鳥居（別府1丁目）

明神型の石造の鳥居です。堂々とした立派なものです。柱の根元に亀腹がなく、柱をそのまま地面に立っています。

柱には、『正徳三癸巳年九月吉日 蜂熊山三十一世阿闍梨祖元誌之』と銘文が刻まれています。



黒木鳥居 神明鳥居 明神鳥居



味府神社鳥居

明和池遺跡出土遺物

17年ぶりの里帰り展

ところ 安威川公民館ロビー

とき 11月1日(月)~11月22日(月)

ところ 市民ギャラリー(フォルテ摂津2階)

とき 11月24日(水)~11月27日(土)

午前10時~午後5時

(最終日は午後4時半まで)

展示の案内はふるさと摂津案内人が努めます。

備考 今後、市役所本館ロビーや新鳥飼公民館にも巡回していきます。

昭和62年に千里丘東5丁目のマンション建設に伴い、明和池遺跡で発掘調査が行なわれました。そして、弥生時代から戦国時代に至る建物跡や溝跡等の遺構、土器など遺物が多数発見されました。これらの遺物は、これまで大阪府教育委員会で保管されていましたが、平成16年3月に摂津市へ保管変更され、里帰りしました。発掘調査で明かされる摂津市の埋もれた歴史とは？

右 石帯丸鞆

左 北宋銭



石碑・顕彰札の紹介

金剛院と蜂塚

金剛院は、蜂熊山と号して真言宗に属し、薬師如来を本尊とします。寺伝によると天平年間、一人の老人が遊歴中の僧行基に珍菓を供しながら「この地は霊地なり一寺の建立を乞う」と言い消え去りました。行基は薬師如来を刻み本尊とし、放光山味舌寺と名づけたといひます。その後、鎌倉時代に至りこの地に賊徒が蜂起し住民を窮地に追いやります。そこで本尊薬師如来に祈願したところ蜂が群れをなして出現し、賊徒を追い払ったという伝承があります。その時に死んだ蜂を武器とともに埋めて供養したのが「蜂塚」と呼ばれています。これより寺名を蜂熊山蜂前寺金剛院と改めました。僧行基は難波の津に関わる人物で、この地を活発に往来していた可能性はあります。また鎌倉時代は農業、商工業も盛んとなり悪党などが跋扈する時代です。寺伝はこれらの時代背景を反映しているのかも知れません。

摂津市域の歴史をたずねて

【所在地】摂津市千里丘3丁目10

【設置年度】平成3年度



蜂塚写真



第42回 埋もれた摂津市の歴史

淀川から土器が出土・柱本遺跡の調査

先月号では、昭和49年の淀川改修工事において、多量の遺物が採集されたことを紹介しました。これらの遺物は工事中の発見で発掘調査によるものではありません。淀川周辺は河川による沖積作用が激しく、これまであまり大規模な発掘調査が行われることはありませんでした。しかし本市に所在する柱本南遺跡に近接する高槻市柱本地先河川敷で昭和43年に柱本遺跡調査会により試掘調査が実施されました。比較的小規模な調査でしたが、淀川右岸の沖積地の様相が分かる数少ない調査といえます。調査は当時の建設省近畿地方建設局が実施した淀川低水路整備事業が直接の原因となりました。

柱本遺跡が所在する高槻市柱本地先河川敷はこの時の試掘調査以前に工事が実施されていました。そして当時の大阪府文化財愛護推進委員であった島谷稔氏は、工事中に弥生時代から江戸時代にかけての遺物を発見します。そこには、加工された木材や鉄製大刀なども含まれていました。そこで初めてこの地が遺跡として周知されるに至りました。(つづく)

